

働く高齢者 4人に1人

総務省は20日の敬老の日に合わせて、2015年の国勢調査を基にした高齢者の人口推計を公表した。65歳以上の人口は前年より22万人増えて3640万人、総人口に占める割合（高齢化率）は29・1%となり、それぞれ過去最高を更新した。政府が「生涯現役社会」を目指す中、高齢者の就業率は25・1%と初めて「4人に1人」に達した。

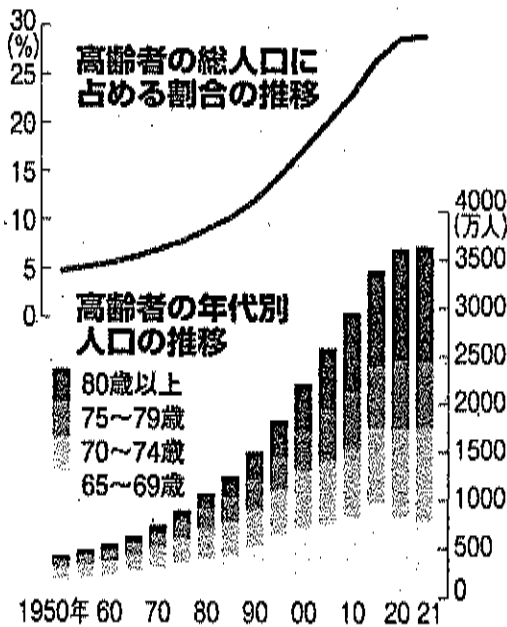
▼27面「シニアもスマホ」

高齢化率 最高の29・1%

高齢者の女性は2057万人（女性人口の32・0%）、男性は1583万人（男性人口の26・0%）。

1947〜49年生まれの「団塊の世代」を含む70歳以上の人口は2852万人（総人口の22・8%）と、

高齢者の総人口に占める割合の推移

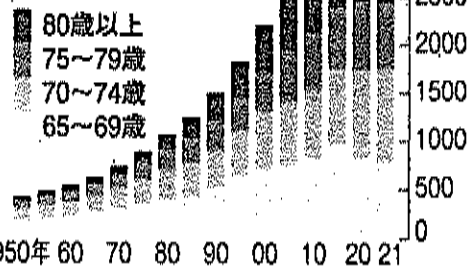


2015年までは国勢調査(10月1日現在)、20、21年は15年調査を基にした9月15日現在の推計

前年より61万人増えた。30%に迫る高齢化率は世界最高で、2位のイタリア(28・6%)、3位のポルトガル(23・1%)を大きく上回る。

高齢者の就業者数は17年連続で増え、906万人と過去最多を更新した。就業率も9年連続で上昇して25%を超えた。日本は主要7カ国(G7)の中では最も

高齢者の年代別人口の推移



高齢者の就業率が高い。就業者全体に高齢者が占める割合も、過去最高の13・6%になった。産業別に見ると「卸売業、小売業」が128万人と最も多く、次いで「農業、林業」が106万人、「サービス業」が104万人で続いた。

働き方は、パート・アルバイトなど非正規の職員・

従業員が7割を超える。その理由について、男女ともに3割を超える人が「自分の都合のよい時間に働きたいから」と答え、最も多かった。一方で、「家計の補助などを得たいから」と答えたのは女性で2番目(21・6%)、男性で3番目(16・2%)だった。

政府は「生涯現役で活躍できる社会を創る必要がある」とし、高齢者の就労を進める一方で、高齢者に新たな医療や介護の負担を求め、社会保障改革を進めている。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、高齢化率は上昇を続け、71〜74年生まれの第2次ベビーブーム世代が65歳以上となる40年には、35・3%になる見込みだ。(小泉浩樹)